

令和6年度 埼玉県学力・学習状況調査

タップで実感 アップでスマイル



CBTとは、「Computer Based Testing」の略で、タブレット端末等（1人1台端末）を使用して調査を行うものです。CBTで実施することにより、紙の調査で把握できた問題の正誤の状況に加えて問題ごとの解答時間も記録・分析することが可能になるので、これまで以上にお子さんの学びの状況を細かく把握することができるようになります。タブレット端末等をタップして解答し、自分の伸びを実感するとともに学力がアップすることでスマイルになって欲しいと考えています。

コバトン

1 調査の主な特長と概要

(1) 主な特長

小・中学校の段階は、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む大切な時期です。

お子さんたちを見ると、伸びる時期やスピードは様々ですが、一人一人は確実に成長しています。

県では、お子さんたちが現在の実力を知り、「どれだけ自分が伸びたか」を実感し、自信を深めていくことを大切にしたいと考えています。そして、自分をさらに伸ばし、自分のよさを活かしていけるよう、効果的な指導方法を発掘し、学校、市町村、県が共有しながら子供たちを伸ばしていきたいと思えます。

本調査では、「学習した内容がしっかりと身に付いているのか」という今までの調査の視点に、「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という視点を加えています。

このような調査を行うことで、お子さん一人一人の成長を支え、一人一人を確実に伸ばす教育を進めます！

大事なことは、
一人一人のお子さんが
「どれだけ成長できているか」
です！



(2) 概要

● 教科に関する調査

学習の積み重ねが「学力の伸び」につながります！

毎年の調査結果を見比べることによって、一年間の学習の積み重ねが「学力の伸び」として見られます。

● 児童生徒質問調査

「ルールやマナーを守る意識」も大切な力です！

お子さんたちの成長にとって大切な「社会のルールやマナーに対する意識」なども見られます。

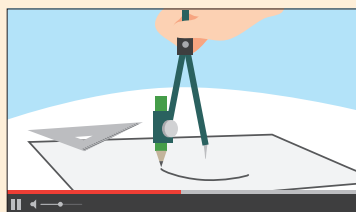
※「学力の伸び」は本調査の2年目以降に見られます。
※埼玉県学力・学習状況調査の結果は、学校の成績には一切含まれません。

2 CBTの主なメリット

映像を活用した問題など、実際の学習場面に即した出題が可能になるとともに、正誤の状況に加えて解答時間等が明らかになることで、より細かくお子さん自身のつまづいている学習内容を把握し、改善につなげることが可能になります。

作図の様子や吹き出しで再現した会話等を動画で出題

算数 問1 下の動画を見て、問題に答えましょう。



国語 問2 下の動画を見て、問題に答えましょう。



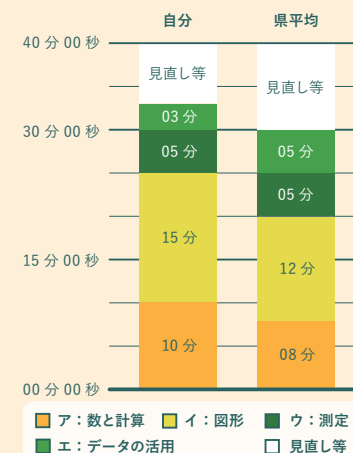
得意・不得意な領域等を把握

県平均と比べて時間をかけた問題

領域等	数と計算			
問題概要	小数と整数のたし算をする			
見直し回数	7	正誤	正	県正答率 45.2%
かけた時間	5分12秒	かけた時間 県平均	2分45秒	

領域等	データの活用			
問題概要	棒グラフから時間を求める			
見直し回数	2	正誤	誤	県正答率 35.4%
かけた時間	2分48秒	かけた時間 県平均	1分58秒	

領域等別のかけた時間



3 調査の内容

(1) 教科等

実施学年	調査の内容	
小学校4年生から6年生	国語・算数	質問調査
中学校1年生	国語・数学	
中学校2年生から3年生	国語・数学・英語	



※出題範囲は、調査を受ける前の学年までに学習した内容になります。
(例えば、小学校4年生の問題は小学校3年生までに学習した内容です。)

(2) 調査のスケジュール

実施日 令和6年4月24日(水)から5月22日(水)

結果の返却 令和6年8月以降を予定

4 家庭での調査結果の活用法 「伸び」が見えると「意欲」が高まります！

一人一人が自分の成長を
実感する！



子供をやる気にさせるには、どのようにすればよいですか。
お子さんのやる気を高めるには、調査の結果を見て、よかったところや伸びたところをほめてあげると効果的です。また、日頃からお子さんの学習への取組やがんばっていることをほめてあげることも大切です。



家庭では調査の結果をどのように使って、子供の力を伸ばしていくとよいですか。

家庭では調査の結果を見て、次のような取組を行うと効果的です。



コバトン

STEP1

お子さんの「よいところ」「努力が必要なところ」を把握

調査では、学習した内容が「どれだけ身に付いているのか」がわかります。毎年調査を受けることで「学力の伸び」も見ることができます。結果を見て、お子さんの現在の学力を知り、それをどれだけ伸ばしていくかということが大切です。学校の先生と話し合いながら、お子さんのよさを伸ばしましょう。

STEP2

一人一人のお子さんに合った「目標の設定」

お子さんの「よいところ」「努力が必要なところ」を把握したら、それぞれのお子さんに合った目標を立てることが重要です。

STEP3

「家庭学習の習慣化」

目標に向けて学力を伸ばしていくためには、家庭学習を習慣化していく必要があります。学習する内容は、学校の授業の予習・復習を中心に行うとよいでしょう。

学習の成果は、毎年調査を受けることで「学力の伸び」を見て確認することができます。

家庭学習を習慣化するためには、どのようにしたらよいですか。

家庭学習を習慣化するためには、お子さんの主体的に学習に取り組む態度を育むことが大切です。

そのためには、お子さんの「伸びたところ」「努力が必要なところ」を把握し、お子さんと一緒に具体的な目標を決めてみるとよいでしょう。

また、調査の結果から、お子さんの「よかったところ」や「伸びたところ」をほめ、お子さんと一緒に家庭学習を習慣化するためのルール作りをしてみるとよいでしょう。

問い合わせ先

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 学力向上推進・学力調査担当
電話：048-830-6752 メール：a6750-01@pref.saitama.lg.jp